

令和3年度 高原町立後川内中学校 学校関係者評価書

4段階評価 [1:改善を要する 2:やや期待を下回る 3:ほぼ期待通り 4:期待以上]

	本年度の重点目標	学校自己評価の結果の考察・分析及び改善策等	自己 評定	学校関係 者評価	学校関係者評価コメント
確 かな 学 力	1 指導力の工夫・改善と個別指導の充実	一人一台のタブレットPCが導入され、授業においてICTが積極的に活用されている。また、一人3回の研究授業と相互参観を実施し、効果的なICTの活用について研修を行い授業改善に努めた。3年生の地区学力テストではほぼ全ての教科が地区平均を上回ることができたが、目標としている地区平均プラス5点には届いていない。1、2年生は、ベネッセ学力調査や実力テストの結果をもとに各教科で具体的な指導方法について検討する予定である。また、今後も少人数ならではの個別指導を更に充実させたい。	3.0	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルを他校の生徒や保護者などとも実施してほしいと思います。 ・一人一台のタブレットを使っの授業はすばらしいと思いました。小規模校ですが高い目標を掲げて更に上を目指してほしいと思います。
	2 主体的に学ぶ意識の醸成				
	3 読書活動の推進(学校司書との連携)	本年度はPCソフトによる蔵書管理、貸出し返却業務を行った結果、貸出冊数の増加へとつながった。また、図書館祭では「ビブリオバトル」という本の紹介を行い読書への意欲向上を図ることができた。今後も学校司書との連携を図り、明るく借りやすい図書室の環境整備に努めたい。	3.6		
	4 進路指導・キャリア教育の推進	キャリア教育の一環として職業講話・高原工業団地見学を実施した。地域にある事業所を知ることにより進路選択の幅を広げ、「自分の進路」「生き方」等について真剣に考えることができた。また、高校の体験入学や進路学習を通して、進路への意識が高まり望ましい職業観も身に付けつつある。	3.2		
豊 かな 心	1 生徒指導・生徒理解の充実	週に1回、生徒の情報交換を行い、全職員の共通理解のもと支援・援助を行っている。不登校生徒への指導・支援も全職員で共通理解を図った。なかなか登校するまでには至らなかったが、定期的な家庭訪問や電話連絡を通してレポートをとり、進路実現へとつなげた。生徒会活動もそれぞれの生徒が意欲的に取り組み、責任をもって計画・運営にあたっている。それにより、積極性や協調性が少しずつ身に付いてきた生徒がいる。清掃は、時間一杯よく取り組み、無言清掃もしっかりと行うことができています。学校生活アンケートは毎月行い、生徒の実態を確認し、状況に応じて事後確認まで含めて指導、支援を行った。今後は授業中も含め、生徒指導の3機能(「自己決定の場」「自己存在感」「共感的人間関係)を生かした支援・援助を心がけたい。	3.5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・町内にある企業や町内で働いている人の話を聞く機会、そこで体験する機会を今後も設けてほしいです。 ・生徒と先生との信頼関係もよくできていて個性を伸ばす声かけ等がされているように感じました。
	2 生徒理解を基盤にした自己肯定感の育成				
	3 生徒会活動の活性化				
	4 自他を大切にす心の教育の充実と美化意識の高揚				
	5 生徒の実態把握と自立を目的とした支援	生徒の実態を把握し、職員間や保護者との共通理解に十分に努めた。今後も教育相談員やSC、SSWと連携して支援したい。	3.6		
	6 避難訓練等による防災・安全意識の高揚	避難訓練、自転車点検、交通安全教室等は計画的に実施できた。また、引き渡し等の避難訓練は、1月に1回実施できた。	3.6		
健 や かな 体	1 体力向上	保健体育の授業では、主運動の前に毎回補強運動を取り入れることによって、基礎体力の向上に努めた。弁当の日や給食感謝集会で栄養教諭の講話を実施するなど、食の大切さや感謝の心を育てている。	3.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で使用される町内産・県内産食材のPRをよろしく願います。 ・食育や自分の体のことを理解することはとても重要だと思います。実際に一人で生活する時のことを考えて更に充実した保護者指導を期待しています。
	2 食育の充実				
	3 保健面や情報端末使用等の啓発推進	「ほけんだよりで感染症予防や健康安全面についての啓発を行った。メディアとの付き合い方は高原町一貫教育部会より示された『実践3項目』の取組についての提示資料を配付し、参観日を活用して取組の周知を図った。また、コロナウィルス感染症対策として、毎日の検温、手指消毒、マスク着用を徹底し感染症拡大防止に努めた。	3.4		
特 色 あ る 教 育	1 家庭地域との連携・情報発信	情報発信はHPや学校だよりで定期的に行っている。特に本年度は、修学旅行中もリアルタイムでHPの更新を行い生徒の様子を伝えることができた。コロナ禍で東雲太鼓を校外で発表する機会は少なかったが、地域の方に指導していただき聖火リレーや運動会等で披露することができた。また、小中合同の行事は、中学生としてリーダーシップを発揮し充実した活動を行うことができた。また、中中連携においては、各学年とも発表内容を工夫することにより、連携を深めることができた。本年度も6年生の中学校体験入学を実施し、小学校から中学校へ入学する不安を和らげるとともに、中学校を知ってもらうよい機会となった。	3.5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・HPはこまめに更新され学校の様子がよくわかり、楽しく読ませていただいています。 ・子ども達をみていると「こうなりたい」というものをもっているように感じます。そういう導きをしていただいていることと思います。
	2 地域の教育資源や教育力を生かした教育の活性化				
	3 小中一貫教育の推進				

【 総 評 】	1 本年度の取組について 学校経営ビジョンの基、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしていると思う。特にICTを活用した授業への取組や体験活動を通したキャリア教育が充実していた。また、生徒の実態を把握し、職員間や保護者との共通理解に十分に努めていた。コロナ禍で練習時間も制限される中、中体連で優秀な成績を残すことができた。
	2 次年度への改善に向けて キャリア教育の充実を目指し多様な人材を活用した講話の実施や体験活動の充実を図る。引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、安心、安全で楽しい学校生活が送れるよう、学校、保護者、地域が一体となり生徒を支援する。また、読書啓発のために今後も「読書まつり」「ビブリオバトル」等を実施する。令和8年度には、町内小中学校が統廃合となる。コロナ禍ではあるが、地域の方々にたくさん来校してもらえるような取組を考えたい。

SC:スクールカウンセラー SSW:スクールソーシャルワーカー HP:ホームページ